

2020年10月1日

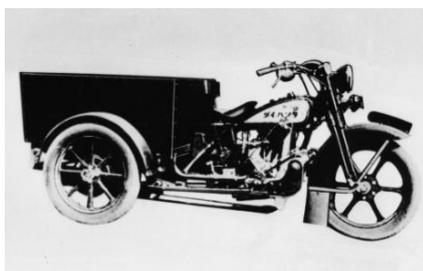
ダイハツ、国内自動車生産累計3,000万台を達成

ダイハツ工業株式会社（以下ダイハツ）は、2020年9月生産分実績をもって、ダイハツブランド車両の国内生産累計台数3,000万台を達成^{※1}した。

ダイハツは、内燃機関の国産化を目的に、1907年（明治40年）に発動機製造株式会社として産学協同で設立。1931年に500ccのエンジンを搭載した三輪自動車「ダイハツ号」を発売し、自動車製造業を開始した。戦後は1957年に発売した軽三輪自動車「ミゼット」が小売業者などのお客様にご好評いただき、1958年にはダイハツ初の四輪自動車として小型トラック「ベスタ」を発売。その後、1960年に初の軽四輪自動車として商用車「ハイゼット」、1977年には小型乗用車「シャレード」、1980年には軽乗用車「ミラ」^{※2}など、軽自動車から小型車まで、お客様の暮らしに寄り添い、日常の生活や仕事を支える多様なスモールカーを生産してきた。

現在ダイハツはお客様の様々なニーズにお応えし、お求めやすい価格でご提供できるスモールカーづくりを目指し、低コスト・高品質な生産を実現する「SSC（シンプル・スリム・コンパクト）」をコンセプトとした、ダイハツの3拠点（滋賀（竜王）工場、京都工場、本社（池田）工場）およびダイハツ九州株式会社大分（中津）工場の合計4拠点で完成車の生産を行っている。

2019年からは、ダイハツらしい軽自動車を基点とした新世代のクルマづくり「DNGA (Daihatsu New Global Architecture)」による新商品を発売しており、引き続きトヨタグループにおけるスモールカーメーカーとして発展すべく、お客様一人ひとりを照らし、軽やかなモビリティライフを提供するというグループスローガン“Light you up”の考え方のもと、多様なニーズにお応えできるクルマづくりを推進していく。



初の三輪自動車「ダイハツ号」(HA型)



初の軽三輪自動車「ミゼット」(DKA型)



初の小型四輪自動車「ベスタ」

※1：ダイハツ調べ。2020年9月末時点での速報値をもとに計算。他社へのOEM供給車両を除く国内生産車両のみ（輸出車両（CBUおよびCKD）を含む）

※2：軽乗用車「クオーレ」の商用車版「ミラ クオーレ」として発売。1982年より「ミラ」として販売